

September / 2019

SPECIAL
ISSUE

くらしと読書のカルチャー・
ワンダーランド

誠品生活日本橋
eslite spectrum nihonbashi

on the desk 提案。

文化ノ流

すてきな暮らしが集まり一本の川となり、
文化と文化の境界を流れ、互いをつなぐ。

最高の時間
街とともにある幸福のひととき

誠品選書 1989-2019

専科本棚 *eslite's Special Feature*

誠品書店読書職人大賞 日本番外編

Japan-Taiwan Cultural Exchange
日台交流コーナー

台日生活スケッチ
著名クリエイター3×3名の視点

日本橋今昔 *Timeless Nihonbashi*
時を超え、文化のストーリーをよめる橋

誠品文具 *eslite stationery*
書斎とスタイリッシュな生活を愛する人へ

台湾ロマン！人情味万屋
時空を超えて、昔の往年の「台湾の美」を読む堪能

台湾と日本の昔ながらの温もりを大切に
食とくらしの未来へ伝えます

最高の時間

街とともにある幸福のひとつき フォトエッセイキャンペーン

都会の地下鉄でほっこりする読書のひととき
あかるい大通りを大切な人とそぞろ歩き
ふだんの食卓の家族との和やかな語らい
週末に友達とはめをはずして気分転換

どのひとときも大切なたからもの
ちょっとしたけど確かな幸福のひとつき



A



B



C



F



G



D



E



H



I

今年7月、誠品ではインターネットを通じて「最高の時間」を募集した。

届けられた世界各地にある日々の至福は、言語に関係なく、私たちの暮らしの中にあふれる瞬間だった。
日本橋からスタートする誠品生活。ここでの対話は、まだ始まったばかり。

INFO
期間：9月27日（金）～11月14日（木）
場所：誠品生活日本橋 テーマウォール

A 八

共に歩き、共に暮らす。
退屈な日々を行ったり来たり。私たちが歩くのはそんな日常。
単純だけど、確実に過ぎていく時間。

一起散歩、一起分享生活。
百無聊賴的日子，往後或向前，在路上我們散步著。
這是我們簡單卻踏實的每一刻！

B megumi_tsai

ただいまと言った瞬間
は最高の時間だ。

每當說聲回家了的瞬間就是
最棒的時間。

C カニ子

生まれてきた甥っ子は可
愛いくてしょうがない。
目に入れたいくらい愛し
ている。一緒にいるだけ
で、癒される。この時間
こそ、最高の時間です。

E Maggie

2本の足が地面から離れた瞬間、命の軽さと
生きている実感が湧いてきた。仕事も悩み
もどうでもいい！自由になった気がした。

雙腳離地那一剎那，發現生命的渺小與真實活著
的感覺，工作、煩惱等在那時都變得不重要了！自由
自在的感覺。

F シェリル チン

医者から目を注意するよう言われた。目の保養に、会社隣の公
園に植物を見に行こうかなと思った。何故かいつもと違う生き
生きとした光景が目の前に現れ、つい見入ってしまう。世間の
ことばかりに翻弄されている都会人にいつの間にか忘れ去ら
れているありふれたこと。心を落ち着かせ、思うままに身を委
ね、感じ取れたことかなと思った。ほんの小さな出来事であっ
ても、必ず幸せが宿っているとその自然から教えてくれた。

H ueuewang

私の暮らしは遙々やって来た君の風景。
自転車を走らせていつもの道へ。
——そこは桜のトンネルだった！

我的生活是你遠道而來的風景。
騎著腳踏車穿梭在日常街道。——是櫻隧道啊！

G tsuyoshirei

五年前和歌山県の梅干し工場で働いた時、江ちゃんと一緒に
働いたり、生活したりして猫のこと大好きな私達は台湾に戻
ったら憧れる生活しようとお互い応援した。
今の江ちゃんはもう5匹の猫ちゃんがいるカフェを開いてる。
店のことも猫の世話もちょっと大変だけど、とにかく憧れる
生活へ頑張っていてよかったと思う。江ちゃんと猫ちゃん
と一緒になら、いつもそういう普通で大切な幸せを感じられる。

I iriskao1217

空飛ぶペンギン。
逃げる時に誰かの許可はいりません。脇目も振らず逃げて下さい。
もし逃げ場所がなければ、動物園に行きましょう。
人間社会なんぞに縛られないたくさんの生物があなたを待っていますから。
もしかして、逃げる時は最高の時間。

グローバル時代の文学界を リードする 誠品選書 1989-2019

誠品は 1990年11月から「誠品選書」プロジェクトを行っている。スタート当時、選書の基準を「すでに重版されたもの、著作権のないもの、一時的に流行しただけもの、通俗的な本は選ばない。学術的、専門的なもの、一般向けのものなどを問わず、難しいものである必要はないが、創作と出版に対する誠意があるものならジャンルを問わず推薦書籍とする」とした。

2019年、東京の日本橋にオープンした誠品書店の日本一号店では、これまで同様「誠品選書」を通して読者に誠品の観点を直接伝えていきたいと考えている。まず、台湾の誠品選書が推薦した書籍とブランド精神を日本の方々に紹介するため、過去30年の重要な出版物を精選した。また、日本の多種多様な出版物の中から、その月の代表的で、話題性、独創性があり、編集が優れている書籍もセレクト。各ジャンルのクリエイターと編集者との対話につながることを期待している。また、毎月、台湾と同時に台湾の最新の誠品選書を紹介することで、台湾とは言葉が違う日本においても誠品書店が考える読書と企画を日本の読者に伝えたい。

誠品選書の考え方と原則

内容 Content

独創性、独自性、
革新性があり、

そのジャンルや分野において代表的なもの。

著者 Author

その分野において

重要または特別な
貢献をしており、

長く華文での創作活動行っているか、初めて発表される作品。

形式 Form

編集、表紙とレイアウトデザイン、装丁などが

細部まで
よく作られているもの。

社会 Society

時流や変化に合った、

影響力ある

テーマが選ばれているもの。

常設展
permanent
exhibition

INFO

期間：定期的に更新し、お勧めします

場所：誠品生活日本橋 誠品選書コーナー

誠品選書
eslite
RECOMMENDS
BOOKS

文字の世界に潜入し、 真実の世界を探索する

「専科本棚」は、多種多様な日本の出版物を専門的に企画性を持って選んだテーマ読書コーナー。常設のコーナーとは異なる知識を得られるよう、時事性のある書籍を選び定期的に入れ替え即時性を保つ。多面的な企画を扱い、毎日の暮らしに沿った知性ある読書棚としたい。

特別企画の初回テーマは「グローバルイシュー発信中」。日本も台湾も属するアジアの観点から、1年の主要な国際ニュースを読み解く。「ヒューマニティー」「アート」「クリエイティブ」「ライフ」という誠品書店のコアバリューをもとに、面白くて読みやすい本をセレクトし、個人と世界との距離をより近づけたい！

グローバルイシュー発信中 ヒューマニティー

トレンド、思想、歴史、地理

Issue1 — イギリスのEU離脱

Issue2 — 米中貿易戦争

Issue3 — 人類初の月面着陸から 50年

グローバルイシュー発信中 アート

音楽、美術、映画

Issue1 — なぜパンクシーは自分の作品にシュレッダーを仕掛けたのか？

Issue2 — 身売りしたサザビーズ

Issue3 — レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500周年

グローバルイシュー発信中 クリエイティブ

文学、デザイン

Issue1 — ノーベル文学賞 2018年 & 2019年受賞者同時発表

Issue2 — フレンドリーな都市デザイン

Issue3 — 2019年 世界遺産新登録リスト

グローバルイシュー発信中 ライフ

生活全般、カルチャー観察、食生活

Issue1 — 台湾 同性婚を合法化

Issue2 — 副業が今流行っている！「定時退社」経済

Issue3 — プラスチックを使わない生活

常設展
permanent
exhibition

INFO

期間：9月27日（金）～12月26日（木）

場所：誠品生活日本橋 アートブックコーナー

日本の本、私が読んだこの一冊 誠品書店読書職人大賞 日本番外編



2012年から始まった「誠品書店読書職人大賞」は、毎年、その年の一冊とその地の作家を選出する企画。書店で働く1300人のスタッフが、独自の目でプロフェッショナルな推薦文を書き投票を行うが、その年の誠品の店員の読書傾向が反映されたものでもある。誠品書店の海外展開にともない、香港や蘇州などでも行われている誠品書店のブランド指標性を代表するイベント。

今回の「日本番外編」は、グループ全体から212人の専門の異なる誠品の目利きスタッフが、最も代表的だと思う日本の出版物163冊を推薦した。ジャンルを問わない、あくまでも個人的で、ニッチなもの！台湾誠品のスタッフが「日本」を独自に解釈したもので、「日本」が台湾の読者の文化的イメージにどのように大きな影響を与えたかを表している。

番外！番外！なんと
「意見が一致！」
大賞

一番好きな作家

村上春樹（10%）、東野圭吾（7%）、
小川糸（4%）、是枝裕和（4%）

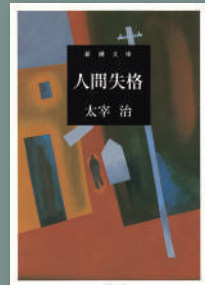
一番好きな小説

『ツバキ文具店』、『ナミヤ雑貨店の奇蹟』、
『人間失格』、『万引き家族』

INFO

期間：9月27日（金）～11月14日（木）
場所：誠品生活日本橋 企画展コーナー

A



A

人間失格

太宰治／新潮社

選んだ人

本店運営 | 程睿弛 選

太宰が描く主人公は、作品の中で扉を一つ、また一つと閉じ、暗い隅に閉じこもり消えていく。世代を超えて強烈に共鳴し、読者一人ひとりが、この負の感情を思わず自身に取り込み、困惑し気落ちしてしまう。しかし、人は自分の存在の小ささを認めてこそ、決断ができ、勇気をもって失意の人生を打開できるのではないだろうか。人として生まれてきたからには、私は一生懸命生きていく。これからも、よろしく。

D

新しい単位

編：世界単位認定協会／イラスト：五月女ケイ子／ポプラ社

選んだ人

商品マーケティング部 | 倪玘瑜 選

2005年の私は、村上春樹や白石一文の本を読んでいて、ドタバタユーモアというものが全然わかっていなかった。ところが、この真面目の頂点を通り越しておかしさだけが残ったような本に出会ってから、真面目すぎるとかえっておかしく見えるんじゃないか、ちょっと力を抜いた方がいいんじゃないかと気づいた。私の人生観を変えてくれた運命の一冊。

B



B

檸檬

梶井基次郎／新潮社

選んだ人

敦南音楽館 | 張瑞家 選

病気のため31歳の若さでこの世を去り、遺したわずか20作の作品が作品集『檸檬』に収められている。病人による世界の破壊性に対する絶筆と言えなくもないが、作品集と同名の短編『檸檬』からは快復したいという思いが伺える。そうでなければ、ちょっとした物の美しさを仔細に描く必要はないのではないだろうか。爆弾が爆発する前の静けさが一番恐ろしいが、ここに全ての面白さがある。ぜひ、読んでみてほしい。

E

ふしぎ遊戯

渡瀬悠宇／小学館

選んだ人

高雄大遠百貨 | 徐詠晴 選

『ふしぎ遊戯』の連載が終了したのは、ちょうど私が生まれた年。時間が経つのをひどく遅く感じる子ども時代、とりわけ現実から本の世界に入り込むあの距離感に、いつも憧れと戸惑いを感じていたように思う。この本が私の成長とともにあったのは本当によかった。美朱はまだいるし、朱雀七星士もまだいる。紅南国も四神天地書もまだあるし、そして、冒険に出たいと思っている私もまだいる。

E



C

犬の記憶

森山大道／河出書房新社

選んだ人

商品一部 | 余得麟 選

写真と文章による森山氏個人の回想。森山氏特有のハイコントラストな作風のように、写真はワイルドで文章は繊細で美しい。森山大道があったから、私たちは街、そして美に対し、違った観点やイメージを持てるようになった。

F

ガイコツ書店員

本田さん
本田／KADOKAWA

選んだ人

高雄大遠百貨 | 林羿君 選

もし、書店がコミュニティーの集まりだとしたら、ほかの場所にある書店もまたそれぞれ興味深い様相をしているはずだ。私は同じ書店員として、この本に描かれている日常の業務やはらはらドキドキする場面を見ると、とても親近感を覚えた。本を探し、陳列し、整理し、外国語でコミュニケーションをとるなど、どの仕事も時間との戦いだけど、シャッターが下りた瞬間に、それら全てがストップする。

あなたの知らない台湾は、 みんな本の中にある 文学の中の生活文化

日本と台湾は、その長い友好的な関係の中で、双方の文化を融合させ、かつ互いに変貌を遂げています。誠品書店はまだ日本にあまり知られていない台湾発のブランドや文化を、多くの人に知ってほしいと願っています。文学やライフスタイル、歴史、民芸、食文化など、そのジャンルは多彩。同時に、日本の作家や出版人による台湾文化への視点も取り入れ、日本と台湾双方の差異への理解を深めたいと考えます。この日台交流コーナーでは、日本と台湾の新たな読書体験を楽しめます。

〈オープン記念企画〉 日台文学交流ブックエキシビジョン

この展覧は「現代台湾を代表する作家」と「ルーツを超えた日台の観察者」の作品によって構成されています。台湾人なら誰もが読んでいる文学作品の名作を集め、文章を通して想像を広げ、新しい日台の風景を読み解きます。

現代台湾を代表する作家

洞察力の鋭い台湾の文学者の、土地と社会に対する思いの源とは。

自転車泥棒

吳明益／
訳：天野健太郎／文藝春秋



我的日本：台湾作家が旅した日本

王聰威、舒國治 など／
訳：呉佩珍、白水紀子、山口守／白水社



冬将軍が来た夏

甘耀明／白水社



ルーツを超えた日台の観察者

ウオッチャー
移民や日台ハーフ、長期滞在者など、日本と台湾の両方を熟知している人は、自己をどのように捉えているのでしょうか。文化の文脈の中で考える、アイデンティティーに関する創作展です。

越境（ユエジン）

東山彰良／集英社



五つ数えれば三日月が

李琴峰／文藝春秋



六月の雪

乃南アサ／文藝春秋



〈サブ展示〉まだ見ぬ「裏台湾編」

ガイドブックでは紹介されない、作家たちによる台湾の生活記録。ようこそ、ディープでローカルな台湾へ！

老屋顔——

台湾レトロ建築案内

辛永勝、楊朝景／
訳：西谷格／エクスナレッジ



台湾レトロ氷菓店——

あの頃の甘味と人びとをめぐる旅

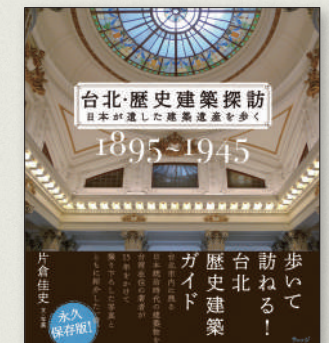
ハリー・チェン（Hally Chen）／
訳：中村加代子／グラフィック社



台北・歴史建築探訪——

日本が遺した建築遺産を歩く

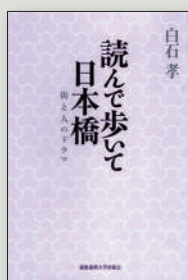
片倉佳史／ウェッジ



時を超え、 文化の スピリットを伝える橋

日本橋は江戸の開府以来、日本経済の中心として発展してきました。現在と過去が融合した、ノスタルジックで個性的な魅力に満ちた街と言えます。誠品書店は日本橋及び中央区に特化したコーナーを設けました。このエリアにおける17世紀から20世紀までの、様々な文化や人々の生活の変遷にまつわる書籍をセレクトしています。

日本橋物語 歴史、社会、建築、写真



読んで歩いて日本橋——
街と人のドラマ
白石孝／慶応義塾大学出版会



令和版江戸名所図会——
江戸の街並を俯瞰で楽しむ
永井伸八朗／日貿出版社

江戸の文学

美術、デザイン、工芸、
文学、映画、演劇



一日江戸人
杉浦日向子／新潮社



幻色江戸ごよみ
宮部みゆき／新潮社

人々の暮らし 食文化、旅行、生活



『熙代勝覧』の日本橋
活気にあふれた江戸の町
小沢弘、小林忠／小学館



江戸文化の見方
竹内誠／角川学芸出版

常設展
permanent
exhibition

INFO

期間：定期的に更新し、お薦めします
場所：誠品生活日本橋 アートブックコーナー

台湾人から見る日本、日本人から見る台湾とは？

台日生活スケッチ 著名クリエイター3×3名の視点

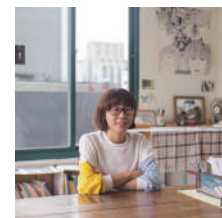
文化や生活という切り口から両地域の共通点や相違点を見ていくことは、相互理解の第一歩です。写真家やデザイナー、イラストレーターといったクリエイターたちは、お互いの地域や専門分野から見れば、どんなふうに見ているのでしょうか？台湾と日本から3名ずつ、著名なクリエイター計6名に語ってもらいました。

日本観察団



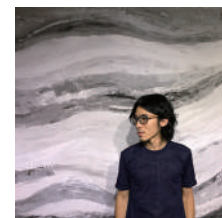
鄭弘敬／写真家

台湾は生活費が割と安いし、歴史や文化の独自性から、写真創作にいいところだと思う。日本はプロの写真家がかなり多い。一度注目されると、仕事の幅や可能性が一気に広がるように思う。



紅林／イラストレーター

日本列島には色鮮やかなはっきりとした四季があり、これが日本の美的感覚に深く根付いている。色調もきれいに整い、洗練されていて美しい。一方、台湾は亜熱帯のため、すべてが南国の濃い色で、人や文化、風景にも淡く純粹な色合いはない。



林唯哲／デザイナー

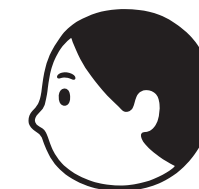
多くの日本人は、デザインの観念をすでに身につけているような気がしている。また、最善を追求し続ける姿勢は日本人の国民性ではないかと思う。台湾はというと、手法がすごく自由で、主観と直感を信じている人が多い。

台湾観察団



川島小鳥／写真家

台湾の人たちの印象は、日本人とくらべて人と人の距離感が近くてフレンドリー、そして親切。



Noritake／イラストレーター

台湾には昔の日本で感じた和やかな空気を感じる。多くの人たちが作り出すもっとも素直で、自然な空気だからではないだろうか。そういう空気を感じると、少し心が洗われる。



高田唯／アートディレクター

日本のグラフィックデザインはそれなりに歴史があるから、ある程度ルールがあって、そこを重んじるところがある。台湾はまだ「型」がないから、その分とらわれていなくて、のびのびとしている感じ。

INFO

期間：9月27日（金）～11月14日（木）

場所：誠品生活日本橋 企画展コーナー

書斎とスタイリッシュな生活を愛する人

誠品文具では、「書・文房具」と「写生書屋」という二つのテーマのコーナーを設け、実用性があり、理想的な定番文具をセレクトしています。デザイン性の高い、クリエイティブな書斎ライフを楽しめます。

AREA——書・文房具

「閲」「聴」「蔵」「書」「器」という五つのジャンルに分け、精緻かつ実用的な書斎アイテムを展開します。オープニング期間にはスペシャルなブランドも登場。ユニセックスでレトロなスタイルの商品などを揃えます。



RIFLE PAPER

2009年にアメリカで設立されたこのブランドは、「紙とライフスタイル」をテーマに商品を展開しています。レトロ感の漂う美しいアイテムの根幹にあるのは、品質へのこだわりです。アーティストのAnna Bondによる手描きのイラストはエレガントで純真。大人でありながらどこか少女の雰囲気をも併せ持つ作家自身を感じさせます。

Napkin

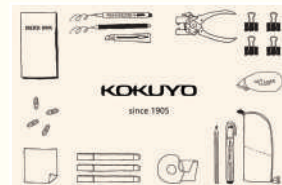
文字を書いたり、絵を描いたりもできる同ブランドの筆記具は、インクが要らず、持ち運びに便利なデザインアイテムです。ルネサンス時代のロマンも漂わせる逸品です。

Chord&Major

音響技術だけでなく、ちょっとユニークなイヤホンのブランドです。各ジャンルの音楽の歴史の変遷や曲の構成要素、特徴、表現方法などを探求。こうして生まれたのが、音楽ごとにチューニングされる「トータルイヤホン」です。

AREA——写生書屋

「アートラボ」というコンセプトのもと、初心者向けの絵具や筆記具、紙などを揃えます。また、ブランドとの企画展やワークショップなども行われ、様々な角度から「書く」という体験を楽しめます。



KOKUYO POP-UP SHOP

本企画では、時代を経て愛されてきたロングセラーや、時代を捉えて進化したニュースタンダードを展開いたします。10月中旬からは新作も登場。

期間：9月27日（金）～11月14日（木）
場所：誠品生活日本橋 文具エリア
主催：コクヨ株式会社



HIGHTIDE POP-UP SHOP——25th ANNIVERSARY

創業25周年を迎えた今年、誠品生活日本橋にて特設Pop-up Shopを開催。penco、naheといった代表ブランドを中心に、日々の生活が楽しくなるような文具や雑貨が、ほぼフルラインアップで揃います。

期間：9月27日（金）～11月14日（木）
場所：誠品生活日本橋 文具エリア
主催：株式会社ハイタイド

 **誠品文具**
eslite stationery

台湾ロマン！人情味万屋

時空を超え、昔の「台湾の美」を堪能

古き良き時代の台湾は、どの街角にも色々なものを売っているよろず屋があった。そこにあったのは生活必需品だけではなく人情。さあ、時空を超えて昔の物を見てみよう。昔の時間、人情や風土、そして日常生活の記憶を紐解いてみよう……これこそが台湾ロマン！



みんなの心によろず屋がある

老雑時代（まちのよろず屋） | 林欣誼、曾國祥

昔からある雑貨屋は、台湾の風土そのものであり、一つの時代でもある。著者夫婦は二人で2年かけて台湾に残る昔のよろず屋を訪ね歩いた。読者を時空の旅路へと誘い、心の奥底に潜んでいた美しい記憶を呼び覚ます。



歳月を凝縮し 心の記憶にするミニチュアよろず屋

MR.BOX 工作室 | 黃風然、陳義升

さまざまなストーリーを持つ建物が台湾の歴史地図から一軒、また一軒と姿を消していく。MR. BOXは昔の風景を手作りのミニチュアアートにして見る人の心にその姿を刻めば、建物は決して消えてなくなることはないと考えた。心の中にいつまでも残っているように。



よろず屋を手描きで再現し 古き良き時代を留め置く

OUNCE studio | Leslie Wang

海外生活が長い台湾人画家Leslie。故郷への思いをイラストにし旅先の友と分かち合う。一つひとつのタッチが繊細なレトロ調のイラストは、台湾の風情と人情味のあるストーリーを世界に優しく伝える。

expo eslite × platform original

台湾と日本の昔ながらの温もりを大切に 食とくらしの未来像、伝えます

「誠品生活市集」では日本と台湾の商品を中心に、季節感を大切に、かつ現代人の食生活にも合う伝統食材やキッチン雑貨を集めています。コンセプトは「温故知新」。基礎調味料や日本各地でセレクトした食材、二十四節氣にまつわる食材、あるいは食器など、今なお残されている昔ながらの飲食の文化や生活アイテムに出会えます。

併設の「COOKING STUDIO」では、日本と台湾をはじめとした世界の食文化を紹介する実演イベントのほか、食に関するワークショップも定期的に開催する予定です。



達人シェフが伝授する台湾の代表的な料理 誠品行旅（エスリテホテル）

2015年、台湾初のカルチャーホテル「誠品行旅（エスリテホテル）」が誕生しました。読書や展示パフォーマンス、音楽、映画、緑豊かな自然が一体となり、感動的な体験ができるこのホテルは、デザイナーと市民によるクリエイティブ産業エリアに位置しています。そこには、「人をもてなし、心をもてなし、場所をもてなす」という気持ちが込められています。

このホテルで中華料理のシェフを務めるのは、20年近い料理経験を持つ林彦諄（マース・リン）氏です。中国の浙江料理と杭州料理を得意とする林シェフは、中華料理の新しい表現にも注力し、食材本来の味わいを追究。旅人やグルメなゲストたちを幸福にする一皿を生み出しています。今回、海外初となる林シェフによる料理のレクチャーが行われます。「紅焼牛肉麵、ワタリガニのおこわ、二色の焼きビーフン、昔ながらの大根もちスープ、臘味大根もち、西魯肉」といった台湾の代表的な料理を、日本橋の地で伝授します。



台湾女子の中華食材料理教室 アイリーン・クウオ

書籍『台湾女子の私的行きつけリスト』の著者であるアイリーン・クウオによる料理教室。クウオは日本に移住したのち、故郷の味が恋しくなり、スーパーで中華食材を探しては簡単にヘルシーな料理を作るようになりました。また、大学時代には父親の病気がきっかけで、「食事療法」についても勉強しました。彼女は体にいいものを食べることで、体の中だけでなく、外側も健康的で美しくなることを知っているのです。

この教室では、クコの実や白キクラゲ、干しエビといった中華の伝統食材を使った料理の作り方を実演します。「枸杞醉雞」（クコの実と鶏肉の紹興酒漬け）「桂圓枸杞銀耳湯」（竜眼とクコと白キクラゲのスープ）「古早味粥」（昔懐かしいお粥）「開陽粉絲白菜煮」（干しエビ、春雨と白菜の煮込み）など、台湾風味たっぷりの、体が喜ぶ料理です！



発見！ 阿里山コーヒーの魅力 Goodman Roaster

「Goodman Roaster」は伊藤篤臣という一人の日本人が台北で設立した、自家焙煎スペシャルティコーヒー専門店です。伊藤氏は台湾・阿里山の地で衰退しつつあったコーヒーに出会い、農園主らと共にコーヒー豆の品質向上を目指しました。地道にブランディングを行い、近年は台湾の人々を魅了するまでになっています。その「阿里山コーヒー」の魅力を解き明かす、試飲付きの体験型講演です。同店は現在、台北に2店舗を展開。2019年10月には京都に日本一号店を開業予定です。



漢方食材と台湾薬膳茶講座 DAYLILY

漢方で体を整えるべく、漢方薬剤師と共に自分の体質を知り、体質や季節にあった漢方食材、台湾薬膳茶のブレンドの仕方を学ぶ講座。DAYLILYの大人気薬膳茶「EAT BEAU-TEA」を監修した漢方の薬剤師柳沢侑子を講師に迎え、一人ひとりの体質チェックに行います。自分にあった漢方で身体を整えましょ！



台湾風お米ランチ Café de Riz 米販珈琲

2013年に台北に誕生した「Café de Riz米販珈琲」は、台湾風おにぎりなどが楽しめるおしゃれなお米カフェ。本物の食材の価値を伝えることをモットーに、ヘルシーで美味しい料理を提供しています。ミシュランの星付きシェフや台湾の伝統的な屋台ともコラボし、お店厳選のお米と合わせてメニューを開発。バランスのとれた食生活を広く根付かせています。同店による「台湾風お米ランチ」が、10月27日（日）から11月1日（金）まで、期間限定で発売予定です。



「大同電鍋」で作る 美味しい家庭料理 Mart編集部

台湾の家庭で愛されている国民的電気鍋「大同電鍋」を使った料理講座。日本と台湾の家庭料理を、この鍋を使って手軽に美味しく作れるレシピをご紹介します。講師の上島重紀先生の料理や台湾トークも魅力の講座です。どの回からでもご参加いただけます！



以上がオープニング期間中の特別企画コース内容です。
詳しくは誠品生活日本橋公式サイトでご確認ください。

誠品生活市集
eslite marketplace

台湾と日本で厳選！ 素敵なくらしの提案

ここに集まったのは

日本の伝統工芸を再生した現代に息づくセレクトアイテムとワークショップ
台湾の特色ある老舗の特産物と台湾のくらしからのセレクトアイテムを取り入れ

文化を超え、新旧を融合し

人と人、人と物との素敵な関係をつなぐ

東京で一番楽しいカルチャーライフゾーンを体験しよう

職人精神に注目！

現代に息づく日本のものづくり



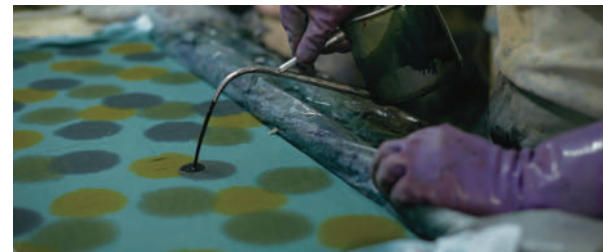
L&Co.

1937年創業の老舗ジュエリーメーカーがプロデュースする工房併設型の店舗。熟練のクラフトマンが常駐し、ジュエリーの製造工程を体験できるだけでなく、オーダーや修理、リフォームにも対応。ジュエリーに関するあらゆるご相談の総合窓口として活用していただけます。



meta mate

“人の温かさが伝わりやすい金属という素材を通じて、人から人へ温かい想いを届ける”をコンセプトとしたギフト＆ワークショップ。オーダーメイドや名入れ等、お客様の想いに沿った贈り物をお作りいただけるほか、金属の魅力を伝えるワークショップも毎日開催。



注染手ぬぐい にじゆら

大阪で生まれた染色方法・注染（ちゅうせん）の文化を大切にしたブランド。染料を注いで布を染める注染という技法においてはそれまで欠点とされていた“にじみ”や“ぼかし”といった特徴を美しさにとらえ、斬新なデザインや明るい色づかいが評判です。日本橋店では体験に力を入れ、定期的にワークショップも実施できる工房を併設。



工場十貨店

衣食住の領域を横断して
日本全国のファクトリーブランドを集めたセレクトショップ。
150年以上の歴史を持つ織物屋さんがつくる傘、サイズも長さも自在にアレンジのおりこうスカートなど品質はもちろん、デザイン、価格、に優れファクトリーさんのアイデアがいっぱい詰まったブランドを厳選、編集商品誕生の物語や、生産地の歴史、素材の特徴、職人の思いなどを全国に発信します。



日本橋玻璃工房

誠品生活松山店でも人気の、本格的なガラスワークショップを体験できる工房を日本橋でも実現。ガラス工芸職人を多数輩出している「東京ガラス工芸研究所」の協力のもと、吹きガラスやアクセサリーづくりといった、ガラス工芸の体験教室を開催します。



Creema & Essence

ハンドメイドマーケットプレイス「Creema」の人気クリエイターによる作品を入れ替わりで紹介するエディトリアルショップ。訪れる度に発見がある、何かを始めたくなる、そんなユニークで、丁寧な背景がある日用品や服飾品、アート雑貨、インテリアを集めています。いつ行っても新しい出会いが待ち受ける、魅力あふれる約30名のクリエイターによる作品たちを是非お楽しみください。

ニーハオ

你好！

台湾スピリットが詰まったほっこりライフ、初上陸



DAYLILY

漢方薬局を営む父を持つ台湾出身の女性と、日本出身の女性2人が設立した、台湾発・女性のための漢方ライフスタイルブランド。女性の体温と気分を上げて、どんな1日も素敵な1日となる手助けができるよう、台湾の日常に根付いた漢方というライフスタイルをお届けします。



阿原（ユアン）

台湾生まれの人気ハーバルケアブランド。漢方の思想と無農薬栽培したハーブを使った商品を、スキンケア・ボディケア・ヘアケア・オーラルケア用品まで幅広く取りそろえます。特に天然ハーブを使用してひとつひとつ手作りされた石けんは定番商品として長く愛されています。



P. Seven 茶香水

台湾茶香水発祥のブランド。フランス留学経験者の調香師を中心としたチームが、愛する台湾の文化・土地を香りで表現したいという強い思いから開発しました。「台湾をまるごと瓶に閉じ込める」をブランドメッセージに掲げ、台湾人の真摯なぬくもりと笑顔を香りに変えてお届けします。



郭元益（グオユエンイー）

清の時代より続く、創業153年の中華菓子の老舗ブランド。何世代にもわたり伝承された匠の技が作り出す深い味わいが評判で、特に台湾では慶事の縁起菓子で有名。パイナップルケーキなどの定番商品に加え、デザイナーとコラボレーションしたモダンなお菓子も取り扱います。

ご飯食べた？

心のこもった台湾と日本の風味を召し上がれ！



富錦樹台菜香檳（フージンツリー）

台北のおしゃれエリア・富錦街（フージンジェ）で人気の台湾料理レストランが日本初上陸。新鮮な野菜やフルーツを取り入れ、しっかり味付けされながら油を控えたヘルシーでやさしい味わいが特徴。豊富に揃えたシャンパンと共に楽しみいただけます。2018年台湾政府が勧める「必ず食べるべきグルメ10選」に選ばれています。



王徳傳（ワンダーチュアン）

1862年、台南で創業した老舗台湾茶荘。専門の茶畑で生産されたこだわりの台湾ウーロンは、独特の甘美かつ爽やかな風味を持ちます。日本橋店では、茶師が入れた伝統的な台湾茶のほか、イートインとテイクアウトの両方に対応するウーロン茶ベースのオリジナルドリンクや、お客様自身が台湾茶の世界を体験できる教室もお楽しみいただけます。



THE ALLEY

台湾・アジアを中心にグローバルに展開する本格派ティースタンド。厳選した茶葉をご用意。店内で炊き上げる自家製タピオカは絶品です。「It's time for Tea お茶に恋をする、美しい生活」をモットーに、幸せを感じるドリンクをお届けいたします。



猿田彦珈琲

『たった一杯で、幸せになるコーヒー屋』をモットーにした日本発のスペシャルティコーヒー専門店。台湾・猿田彦珈琲のパートナーである誠品生活の日本初進出に伴い、本の言葉が溢れ出す空間は「本を体感し、コーヒーを見つける」今までにない店舗に仕上げました。ここでしか体感できない一杯をお楽しみください。

2019/9/27（金）～11/14（木）

上記オープニング期間中に
「誠品メンバーズカード」の
お申し込みをされた方限定で

ご利用開始日のお買い物は ポイント3倍！

会員になって、優待サービスを受けましょう

1. QRコードを読み取り、公式サイトからお申し込みください。
2. お申し込み後3ヶ月以内に、誠品生活日本橋サービスカウンターでカードをお受け取りください。
※お受け取りの際には、お申し込み時にご登録いただいた携帯電話番号をお伝えください。



アクセスはこちら

誠品メンバーズカード限定特典

ポイントを貯めて、景品と交換しましょう

お買い上げ金額100円（税抜）につき1ポイントが加算されます。貯まったポイントは景品と交換できます。

お誕生日特典

お誕生日月のお買い物は、加算ポイントが2倍になります。

グローバルに楽しめる読書ライフ

海外の誠品生活の店舗でも、日本のメンバーズカードを提示すると、現地の割引サービスが受けられます。

※海外でのお買い物では、ポイントは加算されません。

「ポイントにハッピーを」 抽選キャンペーンのご案内

2019/9/27～2020/12/31のキャンペーン期間中、「誠品メンバーズカード」会員の皆様は、その月のお買い上げ金額5,000円（税抜）を1口として、何口でも、翌月の抽選に応募できます。毎月2名様に

台北誠品文化観光の旅1泊2日

（10万円相当）が当たります！

賞品：台湾タイガーライト航空Tigerlight東京-台北往復航空券1枚 / フォーブストラベルガイド推奨ホテル《誠品行旅 エスリテホテル》デラックスルーム 1泊 / 《誠品生活松山店》体験レッスン / 《誠品シネマ》映画鑑賞チケット1枚 / 《誠品ワインセラー》Estrella Damm Inedit Beerスペイン産ビール 1本。

注1. 「ポイントにハッピーを」抽選キャンペーンご参加にあたり、お買い上げの際に「誠品メンバーズカード」会員様であることの確認のため、カードのご提示をお願いいたします。お買い上げ時にポイント加算されない店舗でのご購入の場合は、レシートをお持ちのうえ、購入日を含む7日以内に、ご応募手続きのため、誠品生活日本橋サービスカウンターまでお越しください。注2. 本キャンペーンは、誠品生活公式サイトに掲載された内容に基づきます。本キャンペーンは予告なく変更、中止になることがあり、その際には誠品生活公式サイトにてお知らせいたします。

キャンペーン宿泊施設協賛： eslite hotel
誠品行旅

キャンペーン航空券協賛： tigerair
タイガーエア台湾

スペシャル プレゼント

オープニング期間中（9/27～11/14）に2階で

16,000円以上のお買い物をされた方に、 誠品30周年記念ノートを 差し上げます

おひとり様一冊限り、なくなり次第終了。



誠品生活日本橋グランドオープン メンバーズカード 会員募集中

価値ある 時間の創造

くらしと読書の
カルチャー・
ワンダーランド

誠品の日本進出第一号店である誠品生活日本橋は、江戸時代の発祥の地である伝統文化の中心に位置しています。COREDO室町テラスの「価値ある時間の創造」というコンセプトに合わせ、書店、工房セクション、グルメの3つのエリアに分け、ゆったりした気分の中、独自の都市の文化空間を味わい、すてきな時間を過ごしていただきたいと考えています。

誠品生活日本橋は、日台文化交流のプラットフォームとして「くらしと読書のカルチャー・ワンダーランド」というコンセプトにし、50を超える台湾のお店を日本にもたらし、台湾らしさのある多様なよりよい生活のご提案をしています。「探検、収穫、シェア」の3つの精神で、「カルチャー・ワンダーランド」の意味を表現し、文化とアートをクリエイティブな形で生活にお届けします。

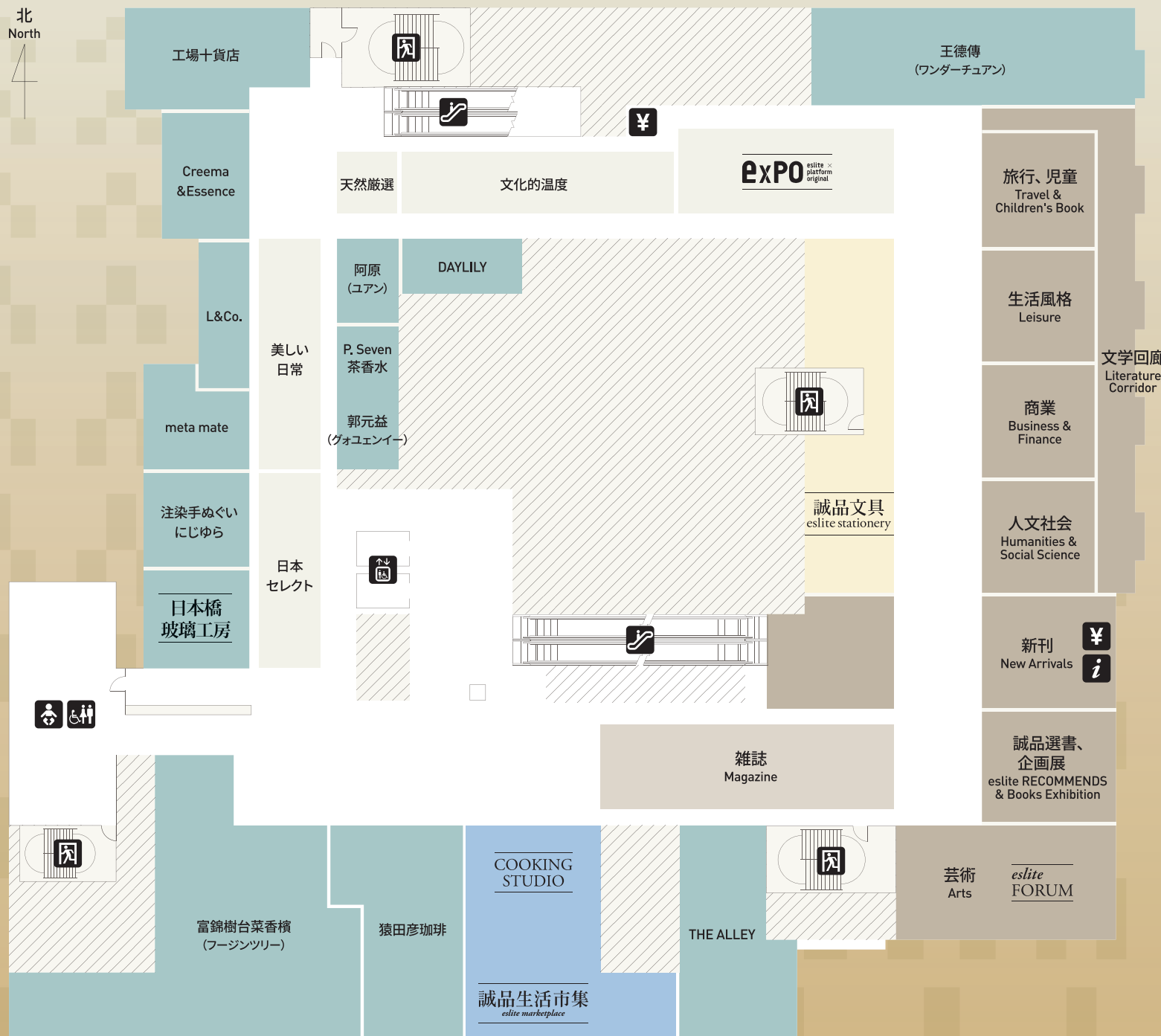
誠品コレクション eslite collection

クラフト・ハンドメイド、リビング用品、グルメなどのエリアで、日本と台湾の著名なブランドを集め、クリエイティブデザインの上質なグッズを厳選、参加や対話が可能な文化体験を幅広くとりそろえ、生活の無限の可能性を広げます。

誠品生活市集 eslite marketplace

「誠品生活マーケットプレイス」は、季節感を大切にしながら、日台を中心に現代人の食生活にも合う伝統食材やキッチン雑貨を集めたエリア。併設される「COOKING STUDIO」では、日台をはじめとした世界中の食文化を紹介する料理実演イベントや、食のワークショップも定期的開催する予定です。

東京都中央区日本橋室町3-2-1 COREDO室町テラス 2階
代表電話：03-6225-2871
営業時間：10:00-21:00 (富錦樹台菜香檳 11:00-23:00)



誠品書店 eslite bookstore

読書を中心として、文学、文化、ライフスタイルといったジャンルの書籍で、30メートルの文学の廊下を作りました。また、読書の主張を持った豊かで多様なプラットフォーム書籍展で、誠品の視点をお伝えしています。年間を通じて間断なく行われるエスリテ・フォーラムは、人々が交流し意見を述べる大切な場です。

誠品文具 eslite stationery

世界各地から独創的でクリエイティブな商品を集め、テーマ別に陳列、最先端のメッセージを伝えています。商品は「読書」をキーワードにセレクトしており、「書・文房具」、「写生書屋」という2つのテーマを立て、生活の細かな部分をもう1度見つめなおし、上質で理想的な書斎の構築へと導きます。

expo eslite × platform original

豊かな文化クリエイティブのエネルギーとライフスタイルを集結させ、多彩なデザイングッズや手作り感のある商品を集めました。日台のデザイングッズが集結したプラットフォームです。文化クリエイティブ産業の交流、市場の潜在力を持ったクリエイティブ・ワーカーと新規デザインブランドの育成、日台文化のフレームのつながりの構築が目的です。



古今が交わり、
新旧が溶け合う
誠品生活日本橋に見る
オリジナリティ
あふれる空間づくり
文／頼素精

「口」「回」の字を思わせる長く伸びた文学回廊

春なれや
名もなき山の
薄霞

春來了吧 看那無名山上 披著淡霞

（奈良に出る道のほど）
松尾芭蕉 詠 董陽孜 揮毫

春來了吧 看那無名山上 披著淡霞

著名な台湾人書家、董陽孜（ドン・ヤンジー）の書いた松尾芭蕉の句

誠品書店が中華圏を飛び出した。1号店となったのは日本の東京日本橋である。店舗は、2014年にアメリカ建築家協会名誉会員（Hon. FAIA）となった台湾の建築家、姚仁喜（ヤオ・レンシー）が統括デザインを手がけた。姚氏による空間デザインには江戸時代の特色と現代の工芸スピリットが反映されており、台湾から日本に「誠品らしさ」が持ち込まれたといえる。

日本橋は、江戸時代に日本の商業の中心地として栄えた街である。当時の賑やかな様子は、1805年に出版された『熙代勝覧』（きだいしょうらん）に描かれている。同書では、店々で売られる商品はそれぞれ異なるものの、どの店にも藍色の暖簾が用いられ、どこか統一感を醸し出している。直線的な通りには揃った街灯が並び、通り全体を秩序立てている。1枚の布に仕切られた店の入り口は、ある種、街歩きにおける「探検」に重なる。この絵巻に深く魅せられた姚氏は、次のように言う。「『熙代勝覧』の描く店の様子は、現代社会における大型商業施設とは明らかに異なります。ここに描かれたやり方であれば、一目で多くのブランドや商品を見渡すことはできず、空間全体のオリジナリティが出せると考えました」。さらに彼は「建築は舞台装置に過ぎない」と主張し、その空間のもつオリジナルの「劇場感」「情景」を重視した。そうすることで、足を踏み入れた人はまるで舞台に立ったような、もしくは劇を見ているような感覚に陥る。ゆったりとこの場を楽しんだ印象は深く刻まれ、人はまた足を運ぶのだ。

舞台のような空間

「誠品生活日本橋」は、建物の2階にあり、上から見ると正方形の形をしている。その限られた空間で姚氏は、フレームと布の間仕切りを用いて幾何学的な演出を試みた。アーチ状の「口」型フレームは等間隔に設置され、その繋がった様の廊下は「口」や「回」の字を描いたようだ。長さ30メートルになる「文学回廊」は書店、レストラン、セレクトショップ、文具という大きなテーマを地続きにする。アルミ製の外枠には木材がはめ込まれ、落ち着きとぬくもりを併せ持たせた。さらに、金属製の柱の上には明かりが取り付けられ、現代日本の工芸の細やかな技を見せる。藍染の布を使って統一感を出すことで、江戸時代の街並みを思わせる仕掛けだ。口の字形の長い廊下だから何周しても構わない。計算された秩序は、空間全体のオリジナリティとして、そ

の雰囲気を作り出す。訪れた人は皆、特に意識せずとも、自らが舞台の上に立ち、その舞台がギャラリーへと続いていく感覚を持つに違いない。

落ち着いた静かな空間

文学回廊には4つの角がある。すべての角に「東西南北」「春夏秋冬」「青龍、白虎、朱雀、玄武」といった東洋の伝統的な方位が示されており、テーマによって赤、黄、青、緑に色分けされている。そのため訪れた人は自分の位置を容易に知ることができる。さらに松尾芭蕉の俳句が好きだという姚氏は「九宮燈」も加え、テーマにあわせた芭蕉の句を施した。当初、日本語を用いる考えだったが、誠品側の判断により、台湾の書道の大家である董陽孜（ドン・ヤンジー）が中国語でしたためた。このほかにも、建築家の仕事だと気づかせずに、訪れた人に落ち着きもたらす仕掛けがある。それは店内にある60センチのラインだ。60センチといえば、日本人が畳の上に座る高さ。視線と地面に垂直の位置に設けられ、ラインより上は濃く、下は白と色分けされている。このラインによって、歩いてくる人は次第に心が静まっていくだろう。

誠品の放つ場所の精神性

姚氏が好むのは「最小限」の設計だ。空間のつくりは一見するとシンプルだが、意図されたコンセプトは単純ではない。20世紀末、誠品書店を形づくった敦南店では、ヨーロッパの図書館というコンセプトの下、中央を走る廊下を軸にして本棚が配置された。2005年にオープンした「誠品生活蘇州」では長い階段を超えた高い位置に書店の入り口を設けた。どれも彼の手によるものだ。2006年にスタートした「誠品生活日本橋」の空間デザインのテーマを「古今が交わり、新旧が溶け合う」とした。これには、日本の伝統的な要素に現代の手法を取り入れる、という意図があった。誠品は書店ではあるものの、ショッピングモールのような性質も持った、博物館のようでもある。そのため誠品を「カルチャーペース」と表現されることもある。だがそれは、文化の本質を知り、誠品自らが本と本でないものをつなぎながら、両者を育てているからだ。こうした誠品の「場所の精神性」は、関わる人たちに共通する願いでもある。

江戸時代の重要な起点から、 アジアの文化発信地へ

——誠品会長呉旻潔が誠品生活日本橋を語る



どの商品もぬくもりと物語を有するようになる書店

私たちはどのような書店にしたいのでしょうか。それは、日本橋発祥の歴史を手がかりとして、アジア各地——台湾だけでなく、香港、中国大陸などの各都市のアート、文化、クリエイティブ、イベントや文化が集うプラットフォームです。ここをアジア文化の発信地としていきたいのです。日本橋が日本の歴史の中で重要な江戸時代の起点であり、旅行者がそれほど多くないこの地域に來られたことを、とてもうれしく思っております。また、観光客ではなく、東京の地元の皆さまと直接触れ合えることも大変うれしいことです。旅行者は、この都市に帰属感がなく、ただ行き過ぎるだけになってしまいがちですが、日本橋の地元の方や老舗はこの地域に愛着を持ち、力を入れておられ、さらに自分たちで協会組織を発足させ、この歴史ある地域の活性化を考えておられます。これは誠品にとっても貴重なことです。私たちが開きたいのは、アジアの他の都市や社会文化のリソースをもちあす時に、その地域に対してやはり情熱を持った人々と「ディスカッション」し交流ができる店なのです。現在、ショッピングができる方法や場所はたくさんありますし、インターネットでもデパートでも同じものが買えます。今後は商品でお客様を呼ぶのではなく、文化的な装いやイベント、コンテンツなどで差別化をはかり、すべての商品にぬくもりや物語を持たせる、そういう店にしていきたいと思います。

「人」の違いで、場所そのものが魅力的に誠品と誠品生活は、「クリエイティブ産業のオムニチャネル・プラットフォーム」と自らを定義づけています。これは、具体的には、台湾、日本、香港、深圳の専門家をお呼びし、1つのテーマについて交流することなどが挙げられます。また、領域を超えたイベントも可能です。例えば、ある時は建築と演劇について語り合ったり、異なる領域の専門家をお呼びするなどです。その場合は、日本の専門家をお呼びすることになるかもしれませんが、建築と演劇と

いった領域を超えた専門家によるトークイベントです。私たちは、毎年、毎月、毎週なにかテーマを選び、こういったイベントを継続したいのです。

知識人が興味を持つような、グローバルゼーションや米中貿易摩擦といったシリアスなテーマもあり得ます。また、どのようにおいしい茶碗蒸しを作るか、お寿司を作るかといった生活的なもの、あるいは台湾料理の「蚵仔煎（牡蠣オムレツ）」の作り方などでもいいでしょう。こういったテーマはクッキングスタジオで扱います。参加者の多くは日本人だと思いますが、アジア以外の地域の人、さらには欧米の人も来てくださるかもしれません。さまざまな「人」が集まることで、その場所に魅力が生まれていく、そういうことを起こしていきたいと考えております。

時代は変化しても、人生の読み方への 思いは変わらない

最近読んだ本で、とても気に入ったものがあります。作者は映画人であり作家でもある小津安二郎先生の本です。小津先生はまさにレジェンドですね。以前、『東京物語』を見たことがあります。とても清潔な映画でした。私が尊敬しているある先生がこの映画を3回見ており、その方は小津安二郎を「修行者」だとおっしゃっていました。私が読んだ本は『僕はトウフ屋だからトウフしか作らない』です。そこでは、小津先生の中国との戦争体験語や、どのように映画産業に入ったか、戦争の経過と先生の映画への考え方が述べられています。最も印象的だったのは、先生がカメラのレンズを通して、人間への愛を伝えたいと述べている部分です。先生は、「この数年でなにか変わったことはありませんか」と聞かれると、自分がひたすらに追いかけてきたのは「人情」であり、「ぼくのいう人情というものは変らないけれども、表現が違ってきた」ということはいえるでしょう。」と答えていらっします。

なので、誠品がずっと追いかけているのは人生の読書であると述べたいのです。ただ、それは時代によって変化しますし、読者や観客も、伝える方法も変わります。この本

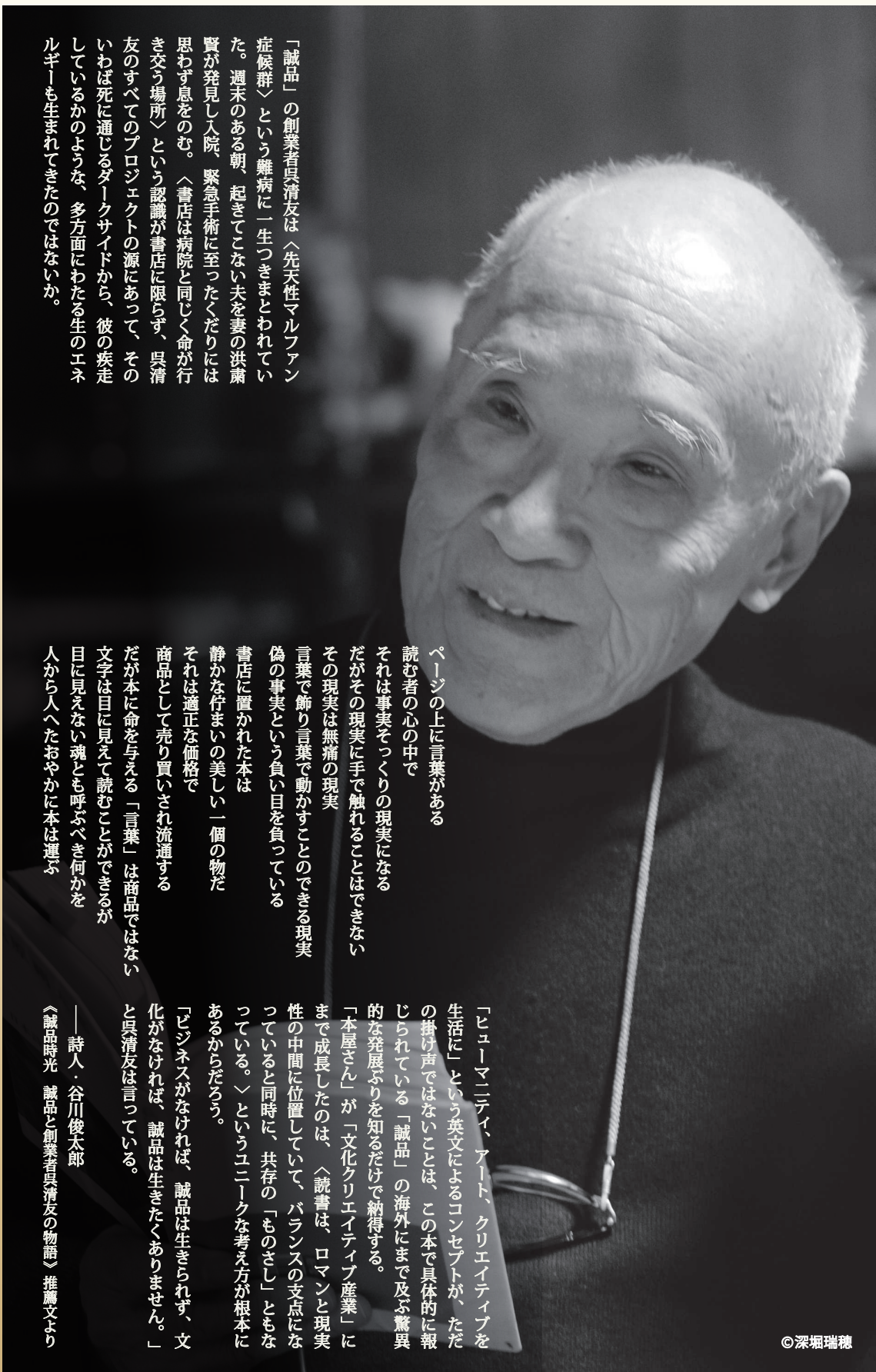
は、まるで日記のようであり、また書き手と対話しているかのようでもあります。例えば、小津先生は戦時中ずっと風呂に入れなかったで、清潔な下着をはいた時には自分がまるで王様になったような気がするとあります。こういう部分は実に楽しいものです。日常生活の多くは私たちにとって当たり前になってしまっていますが、先生の話を聞くことで、自分がとても幸せだと感じられるのです。その後、私は是枝裕和の本を買いました。映像を作る人が言葉で伝えたものとはとても面白いです。

スピーディーな社会の中で、大切な心を 伝えていくこと

私達が伝え続けていきたいのは「人生の読書」です。心をこめて読書する、人生の重みくらい読書を重視する、これが誠品の存在する最も重要な理由であり、私たちが最も伝え続けていきたいものです。でも、それには時間が必要で、長い時間をかけてゆくりと、です。これからの5Gの時代、数秒で1本の映画がダウンロードできるようになります。ですが、その映画を見るには2時間必要です。この時間をかけなければ、ダウンロードした数秒も意味を失います。将来、スピードはますます速まっていくでしょう。だから誠品はこの映画を見るプロセスを省略したくないのです。その映画にあるべき感動は、じっくりと2時間をかけて見ることが必要です。スピーディーな社会の中で、誠品はこのプロセスを残しつつ、同時に多くの可能性を示し、読者であるお客様に選んでいただきたいと思っています。

書店との出会い 彼らの誠品

—— 谷川俊太郎・隈研吾・姚仁喜



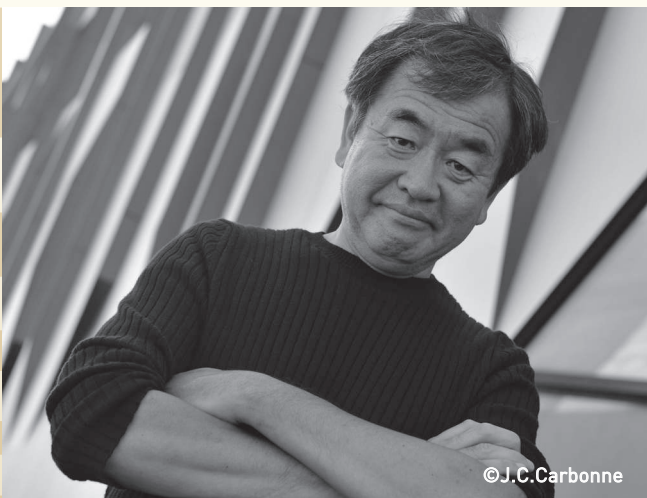
©深堀瑞穂

「誠品」の創業者呉清友は「先天性マルファン症候群」という難病に一生つきまとわれていた。週末のある朝、起きてこない夫を妻の洪蕭賢が発見し入院、緊急手術に至ったくだりには思わず息をのむ。〈書店は病院と同じく命が行き交う場所〉という認識が書店に限らず、呉清友のすべてのプロジェクトの源にあつて、そのいわば死に通じるダークサイドから、彼の疾走しているかのような、多方面にわたる生のエネルギーも生まれてきたのではないか。

ページの上に言葉がある
読む者の心の中で
それは事実そっくりの現実になる
だがその現実の手で触れることはできない
その現実は無痛の現実
言葉で飾り言葉で動かすことのできる現実
偽の事実という負い目を負っている
書店に置かれた本は
静かな佇まいの美しい一個の物だ
それは適正な価格で
商品として売り買いされ流通する
だが本に命を与える「言葉」は商品ではない
文字は目に見えて読むことができるが
目に見えない魂とも呼ぶべき何かを
人から人へたおやかに本は運ぶ

「ヒューマニティ、アート、クリエイティブを生活に」という英文によるコンセプトが、ただの掛け声ではないことは、この本で具体的に報じられている「誠品」の海外にまで及ぶ驚異的な発展ぶりを知るだけで納得する。
「本屋さん」が「文化クリエイティブ産業」にまで成長したのは、〈読書は、ロマンと現実性の中間に位置していて、バランスの支点になっていると同時に、共存の「ものさし」ともなっている。〉というユニークな考え方が根本にあるからだろう。
「ビジネスがなければ、誠品は生きられず、文化がなければ、誠品は生きたくありません。」と呉清友は言っている。

—— 詩人・谷川俊太郎
《誠品時光 誠品と創業者呉清友の物語》推薦文より



©J.C.Carbonne

呉清友氏とMerry（吳曼潔氏）の二人が、初期の台北敦南店や2015年の蘇州、そして今回の東京といった誠品が次のステップに進もうとする重要な節目や新たな試みを模索している時に、必ず私に声をかけてくれることがうれしくもあり光栄にも思う。私達はあれこれ探りながらともに進めてきた。今回の日本橋店も最初から予定していたプランがあったわけではなく、何が「どうできるか」を誠品と話し合いながら決めていった。
これは書店のデザインというよりも、一つの場を創り上げるということだと思う。誠品が一つの「場」だということは誰の目にも明らかだ。今回、日本という新しい国で、東京に一つの「場」を誕生させるということは、とても意味のある挑戦であり、いい経験にもなる。ここはきつと成功し、多くの人々の記憶に残り、そして何度も何度も足を運びたくなる「場」になるだろうと確信している。

—— 建築家・姚仁喜「大元建築工場（KRIS YAO ARTECH）代表



©Tim Liu廖志添

—— 建築家・東京大学教授 隈研吾
《誠品時光 誠品と創業者呉清友の物語》推薦文より

誠品、よりよい社会の追求と実践

創業者呉清友が語る誠品精神

《誠品時光 誠品と創業者呉清友の物語》より



©陳哲軒 Rohsuan Chen

誠品が海外で新規店舗をオープンすることで、より多くの人に影響を与えることができます

「誠品が海外で新規店舗をオープンすることで、より多くの人に影響を与えることができます。誠品が誠品であるために、ヒューマニティー、アート、クリエイティブを生活に織り込んでいくという信念を私たちは常に持ち続けているからです。この理想は決して変わりません。」

呉清友の思いは、誠品が伝えたいものは一種の文化的素養であり、到着した先の都市に新しいエネルギーを注ぎこみ、その土地の文化の特性を尊重し、地元文化との共生をはかりたいというものだ。

しかし、文化には地域性がある。誠品は、いかにしてその都市のもつ語彙の中に、ヒューマニティー、アート、クリエイティブを融け込ませ、ともに感動できる言葉にしていけるかを考えていた。例えば、ミツパチが巣を作る時、その巣の形はすでにその環境にとけこんだものとしてできあがっていくようなことだ。これはまた誠品グループが30年もの間、学び、洗練させてきたブランドの力でもある。

あるいはこの世において、人々は生まれながらの平等はないが、読書の世界には誰もが平等になる機会があるのかもしれない

文化の育成には時間が必要だ。海外展開を始めた誠品は、台湾での経営と同じく、読書を一種の生活習慣にしていこうとしている。

「誠品は多様な生活という角度から人々に読書に親しんでもらいたいと考えています。そのための場所を提供し、どの人も楽しく快適に二、三時間ぐらい読書してほしいと願っています。」呉清友は1990年代から、誠品の存在意義を説いた。この点は、終始一貫している。

「誠品は誰もが平等で、優れた共有空間です。私たちは、都市の人々のユートピアやシャングリラのような、都市の人々の幸福な生活に与る必要な場、必要な存在になりたいのです。誠品という場所はまた心と体が安らぎ、魂が翼を休める場所であればなりません。感情の質、魂の品格、生活のクオリティ、人生の価値などに関心を寄せ、人々が誠品でやさしく前向きな力に出会い、それを知り、大切にしようという場所です。」呉清友は、あるいはこの世において、人々は生まれながらの平等はないが、読書の世界には誰もが平等になる機会があると考えているのかもしれない。

人々が落ち着いてじっくり思考でき、自分の人生へと転換していける場

誠品とはなにか？

あるいは、「善、愛、美の前向きなゴールデン・サークル」によってさまざまな答えが見つかるかもしれない。それは現代のクリエイティブ・プラットフォームの代表だという人もいれば、華人文化ブランドの星だという人もいるだろう。また、その運営モデルの発展から論じる人もいれば、より多くの公的な責任を負うことを期待する人もいるだろう。誠品グループは、人々が落ち着いてじっくり思考でき、自分の人生へと転換していける場になりたいと考えている。

誠品は、呉清友の「人生とはどうあるべきか」という自問自答から始まった。彼は、誠品を創業することで、人生に対する「自問」に答え、心と信念の旅を始め、今まで自らそれを体験している。もし誠品も一つの生命体であるなら、誠品グループのイマジネーションでは、その存在意義はふところが深く、調和的で、静かで、昇華する力を持っているというものだ。

誠品の物語はまだ続いている

「私たちの能力が特に優れているわけではありません。やっていることが自分に少し合っていて、自分を少し知ることができるというだけです。こういったすべてのことは、ただ自分の内面を探索しているだけです！」呉清友は、西洋の建築評論家の言葉を引用する。「一つの理念を本当に知るには、少なくとも20年の時間をかけなければならない。自ら体験し、それに対する疑いがないほど深く信じるには30年の時間がかかる。それを自在に応用できるようになるには、少なくとも50年の人生をかけて証明しなければならない。」

人生をかけて一生の思いを探索することで、その人生は光を放つようになるのだろう。

誠品の物語はまだ続いていく。それぞれの都市のクリエイティブな生活を照らし出す光となって。

読書、創作、生活に向かって、

探し求め、立ち上がり、それを見つめよう！

無数の青春の命、美しい魂、それはいずれも誠品の時間を越えて、今まさに時に明るく時に暗いところにある、ほのかな光なのである。



©天下雜誌 林麗芳／1991

誠品時光

台湾発の文化産業プラットフォーム「誠品」創業者・呉清友の創業秘話 呉清友、呉旻潔という父と娘、そして関係者へのインタビュー。

取材、執筆に3年間を費やし、台湾、香港、蘇州を深く描き、誠品の成長を記録。

定価：2,700円+税



夢見る騎士の誠品の旅 eslite - A Dreamer's Quest

誠品創業者呉清友 ドキュメンタリー

著名なドキュメンタリー映画監督である陳懷恩が台湾各地や北京、蘇州、香港を訪れ、自ら雲門舞集の創始者林懷民、実業家童子賢、アーティスト蔡國強や劉小東、建築家姚仁喜、作家の龍応台や楊照、デザイナー陳瑞憲など、呉清友と心の交わりをした友人たち、そして妻子、親友、従業員を取材、呉清友のこだわり、純真さ、誠実さ、ユーモアなど多面的かつ鮮やかに描き出す。

定価：4,200円+税



時間・文化を集めて 一つの流れにする

誠品30周年——
クリエイティブ産業の
オムニチャネル・プラットフォーム

1989 台北

手探りの時代

都市のすばらしさを探し求めて

台北は誠品が生まれた場所、まだ手探りをしていた1980年代から現在まで、台北からその他の都市や地方まで、時代の流れにそって、市民とともに新しい試みに挑戦し、新しい物語を紡ぎ続けてきました。そして物語は今もずっと新しいシーンを探し求めているのです。



TAIPEI

2012

香港

躍動する都市の中の心の港

誠品が目指すのは、香港の人々が慣れ親しんだ生活の素材をベースにしながらも、慣れ親しんだものの以外により多くの可能性を提供し、香港の人々とながらることです。躍動するこの都市に登場した心が休める港、これが私たちと香港市民の共同制作の作品なのです。



2015

蘇州

文化への共感・生活での対話

誠品の蘇州進出によって、台湾と蘇州のライフスタイルと日常の美において、対話を継続する架け橋ができました。台湾、香港にすでにある40余店舗を基礎とし、芸術作品と読書文化を起点に、新しい文化に共感できるエリアを創造しています。蘇州に進出してからの3年の中で、都市の人々とヒューマニティー、アート、クリエイティブ、ライフに対する当初の想いに回帰し、クラシックなものを新しくし、新しい文化の境目を越え、無数のすてきな想いを一つずつ実現していきたいと考えています。



SUZHOU

2018

深圳

幸せな生活に必要な存在

誠品生活は、深圳に進出したことで、人、空間、イベントや展示によって、すべての市民とともに、忙しい日々の中で心の共鳴を見つけ、生活の中のきらめきを創り出し、ともに新しい旅立ちをすることを願っています。

2019

東京

時間ノ橋、文化ノ流

誠品は日本橋からスタートすることで、文化的な架け橋となり、日本のお客様が心も体も安らげる場を提供したいと考えております。読書という橋をかけ、時間と空間を超え、願った場所へと通じていき、よりよい生活の一つの流れにし、文化の壁や距離を越えたつながりを創出していきたいのです。



TOKYO

2019

SHENZHEN

- 2015 — CNZに連続2年（2014～2015）、「誠品敦南店」が「世界で最もクールなブックストア17選」の1つに選ばれる。誠品生活蘇州オープン。建築、景観デザインからコンテンツの企画運営まで、誠品精神が貫かれている誠品初の建築物。台北市の松山文創園區に「誠品行旅（エスリテホテル）」、「オープン、文化や読書、クリエイティブ、展示やパフォーマンス、映画、音楽が集まったアーティスティックホテルとなった。
- 2016 — 「誠品生活松菸店」がCNZに「世界で最もクールなデパート14選」の1つに選ばれる。中華系企業で選ばれたのは誠品のみ。
- 2017 — 創業者呉清友が逝去し、娘である呉曼潔が誠品会長となる。「エスリテ・アンダーグラウンド誠品29」オープン、台湾で最も長い書店通りの企画、施工に尽力する。これによって、ヒューマニティーへの回帰、空間の公共性の尊重などを強調し、長い河の流れのような時間と文学からなる読書風景を創出した。
- 2018 — 「誠品生活南西」グランドオープン。台北市西区に位置する一棟型の店舗で、クロスカルチャーな「生活広場」を打ち立てた。誠品生活が日本の著名な雑誌『日経TRENDY』に「2019年ベスト予測ベスト30」で第3位に選ばれる。「誠品行旅（エスリテホテル）」が「フオーブストラベルガイド」に2年連続（2018～2019年）でおすすりホテルに選ばれる。「誠品生活深圳」オープン、「幸せな生活に必要な存在」をコンセプトに、誠品生活の特色と読書、ハンドメイド体験、デザインなど多様なコンテンツを提供。
- 2019 — 誠品創設30周年、「夢と想像の地 the Land of Dreams and Imagination」をテーマに、「信義アートプロジェクト展」を実施、9組の「30代」の青年の作品を展示。それらの作品がデザイン媒体としてきわめて著名なイタリアマラノの『designboom』、日本の『AXIS』の表紙を飾る。延べ70万人が来訪。

時間ノ橋

読書という橋を架け、時間と空間を超えて、
願いがかなう場所へ。

提案。

on the
desk

くらしと読書のカルチャー・
ワンダーランド

2019

September **SPECIAL
ISSUE**

時間・文化を集めて一つの流れにする

誠品30周年——

クリエイティブ産業のオムニチャネル・
プラットフォーム

誠品、よりよい社会の追求と実践

創業者呉清友が語る誠品精神

書店との出会い 彼らの誠品

谷川俊太郎・隈研吾・姚仁喜

江戸時代の重要な起点から、
アジアの文化発信地へ——

誠品会長呉旻潔が誠品生活日本橋を語る

古今が交わり、新旧が溶け合う

誠品生活日本橋に見るオリジナリティあふれる空間づくり

価値ある時間の創造

くらしと読書のカルチャー・ワンダーランド

 **誠品生活日本橋**
celite spectrum nibonbashi

